

2019年9月6日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな拡大を続けている。

輸出は、足もと弱めの動きがみられている。設備投資は、増加している。個人消費は、良好な雇用・所得環境等を背景に総じてみれば緩やかに増加しており、前回増税時よりも小幅ながら消費税率引き上げ前の需要増も一部でみられている。住宅投資は、持ち直している。公共投資は、持ち直しつつある。こうした中で、生産は、足もと弱めの動きがみられている。

先行きの景気を巡るリスク要因としては、米国のマクロ政策運営やそれが国際金融市場に及ぼす影響、保護主義的な動きの帰趨とその影響、それらも含めた中国を始めとする新興国・資源国経済の動向、IT関連財のグローバルな調整の進捗状況、地政学的リスク、それらが企業や家計のマインドに与える影響などが挙げられる。

【各論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、持ち直しつつある。

輸出は、足もと弱めの動きがみられている。

内訳をみると、資本財や情報関連が弱めの動きとなっている。

設備投資は、増加している。

個人消費は、良好な雇用・所得環境等を背景に総じてみれば緩やかに増加しており、前回増税時よりも小幅ながら消費税率引き上げ前の需要増も一部でみられている。

百貨店販売額は、増加している。スーパー等販売額、家電販売額は、緩やかに増加している。乗用車販売は、緩やかに持ち直している。旅行取扱額は、横ばい圏内の動きとなっている。外食売上高は、増加基調にある。

住宅投資は、持ち直している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、足もと弱めの動きがみられている。

内訳をみると、生産用機械や汎用・業務用機械、電気・情報通信機械、電子部品・

デバイスが弱めの動きとなっている。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得も緩やかに増加している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%台後半となっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移している。

6. 金融情勢

預金残高は、個人預金や法人預金の増加を背景に、前年比2%程度のプラスとなっている。

貸出残高は、企業向けや住宅ローンの増加などを背景に、前年比1%台後半のプラスとなっている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上